

ネルソン・ドミンゲス展

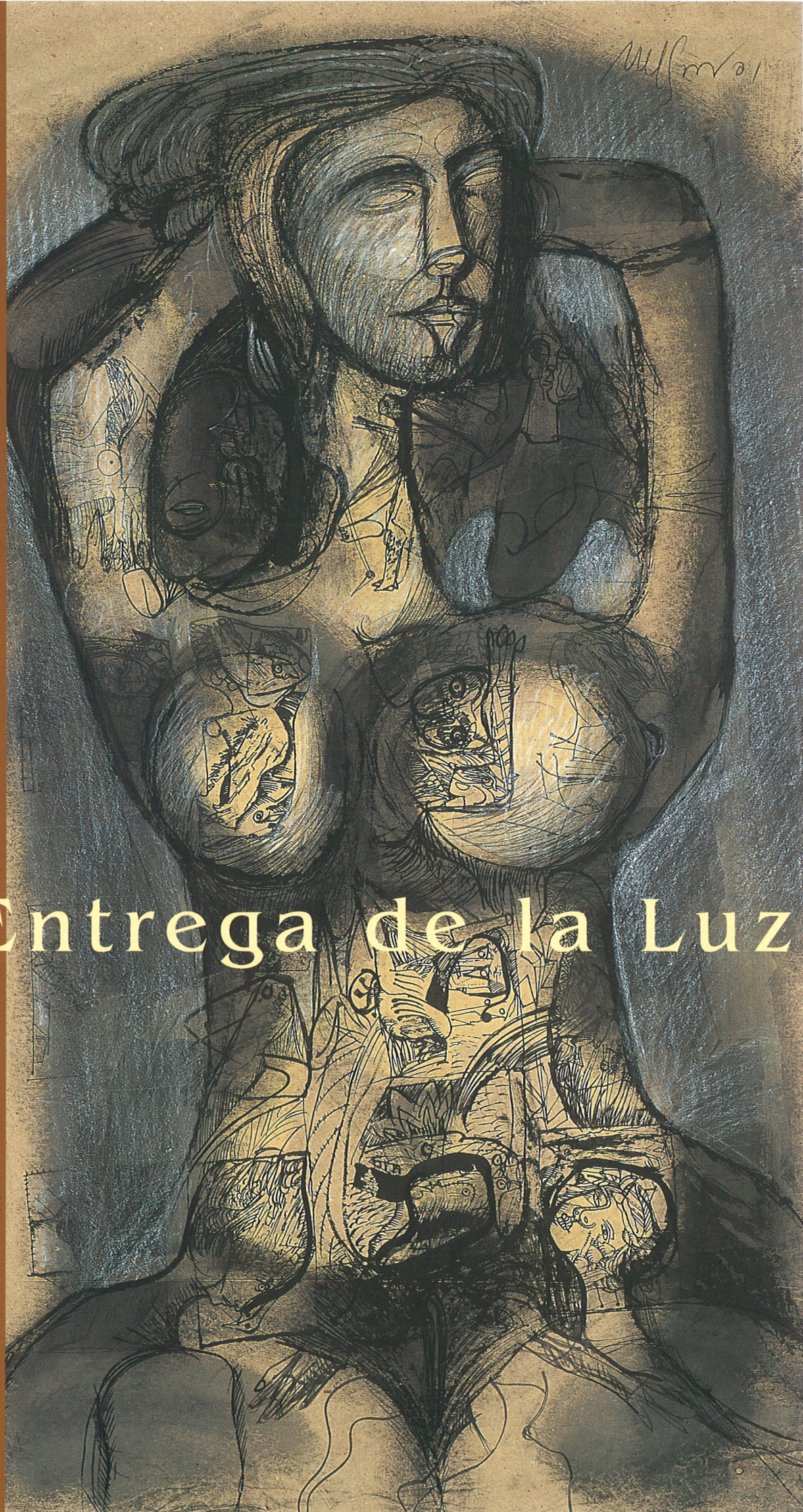
生命の光

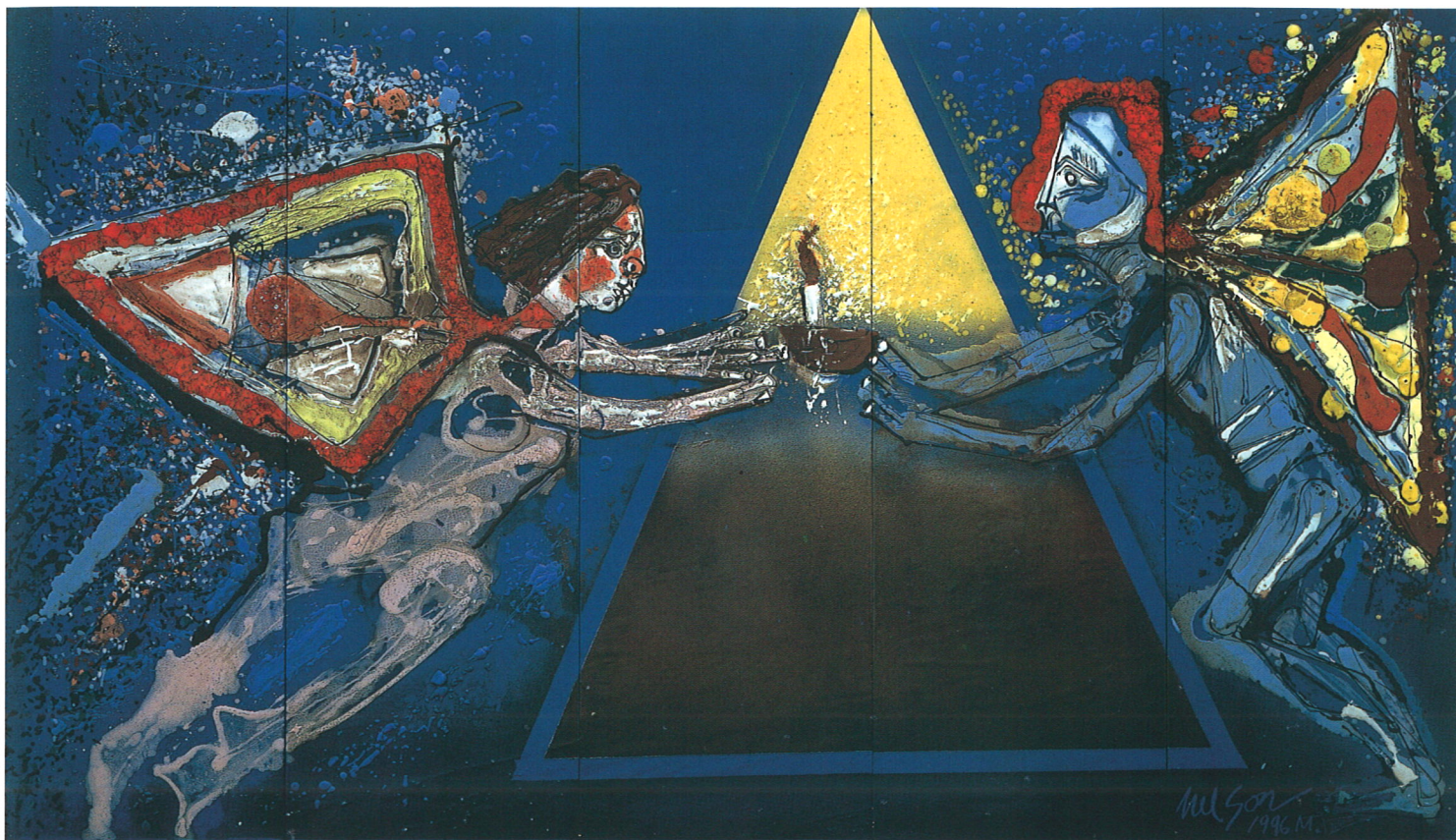
2002
9/21(土)-12/1(日)
ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)

入場料：一般500円 学生400円 未就学児 無料
〒799-2651 愛媛県松山市堀江町1165-1
開館：土曜日、日曜日(月曜日-金曜日は休館)
午前9:30-午後5:00 入場は午後4:45まで

主催：三浦工業株式会社
共催：株式会社ミウラ
後援：キューバ共和国大使館
企画：プロモ・アルテ ラテンアメリカンアートギャラリー

2002年9月21日(土)午後4時よりネルソン・ドミンゲスをかこんでのレセプションをいたします。
お問合せ先：ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)
Tel:089-978-6838 Fax:089-978-0323





生命の光 Entrega de la Luz, 1996 陶板 Ceramic painting 200x350cm

「私の島の顔シリーズ」からネルソン・ドミンゲスの新作展のために

今回のネルソン・ドミンゲスの個展には「私の島の顔シリーズ」から1973年の作品も出されると言う。同シリーズに「収穫」(1974年)という同時期の作品がある。この作品を見ると、彼の制作の根幹がどのようなものか、それなりに把握できる。まず、タイトルにあるように、私の島とはキューバのことである。それは政府、国という単位でのキューバを言うのではなく、あくまでキューバと名付けられた島をさす。それゆえ、この作品には、キューバという島に住む生きとし生けるもの、具体的には男と女、人間と樹林(自然)、果実という恵みへの愛着の思いが満ち溢れている。このテーマは、その後のドミンゲスの基本となるもので、それは今回の新作群でも変わらない。ここでひとつの問いが生まれる。私たちは、私たちの国を、ドミンゲスが言うように「私の島」と呼べるだろうか、＜私の島＞を描けるだろうか、という問いが。

「収穫」は、人物、樹葉、果実に淡い色彩を施し、人物の陰影や樹木の影などに暗く着彩して、明暗の強いコントラストが特徴となっている。そのコントラスト感は、その後のドミンゲスの制作では、ますます単純化され、強められる。同時に、人々と樹林が混然と入り組んだ画面は、具象性が希薄となり、地と図が不明瞭な半抽象的作風となっていき、人や動物やその他のものが躍り出た形像で窺えはするが、具象的な形態としては像を結ばない。色彩関係で言えば、基本的に、暗い色彩の背景(=地)から、対比的な色彩によって躍りに形像が浮かび上がる、あるいは逆に対象(=図)が、明るい地から浮かび上がるということである。近年は、エログラなどのアフリカ宗教神、キリスト教と思しき僧侶、さらには供物など、宗教的なテーマを取り上げ、そこに使用した基調の黒色には、どこか宗教的な神秘性が見られようになる。それを、ここでは、顕現的な描写とっておこう。というのは、ドミンゲスの作品世界は、いつしか、普通の人物や動物などと共に神が顕現するかのようなく私の島>となっていたからである。

その黒色にしても、絵の具の艶やかな塗り、下地の白や赤の色彩などを透かすかのような薄塗り、カーボンのような細かい粉末状のマチエールなど、絵具の多彩な表情を見せている。これは、ドミンゲスが、そこに描かれたイメージが現実と触発されたものでも、一個の独立した絵画世界であることを覚醒させようとしているからではないか。同様に形像の不確かさも、ひとつの説明的なイメージに収斂させるのではなく、人それぞれの多様な解釈にさらされるべき絵画を志向しているからではないか。ここには、絵画が、人々に、いかに受け止められるべきかの、ドミンゲスの自問があるように思う。

彼の描く作品が、アフロ・キューバンな世界を表していることは、しばしば、言われている。が、筆者には、ドミンゲスの＜私の島＞をはじめとする作品が、遠くアフリカからの文化とスペインをはじめとするヨーロッパからの文化を、いかに血肉化したかの自負を示しているように思えてならない。また、ドミンゲスの絵が、キューバ美術なかんすくウィフレド・ラムの血脈を汲むものであることも、作品を見れば一目瞭然だろう。自国の文化伝統を踏みはずことなく、いかにそれを超克、革新するかのドミンゲスの腐心が、ここから理解できる。冒頭にあげた自国意識の問題もさることながら、このような美術文化の受容と展開のあり方について、ドミンゲスの作品は私たちに問いを投げかけていると言える。

ネルソン・ドミンゲスの新作展が開かれる今秋には、横浜市美術館で、ウィフレド・ラムの本格的な回顧展も開かれる。2人のキューバ人画家が、彼らの＜私の島＞の文化のアイデンティティを、どのように確認し、掘り下げたか、を私たちは目の当たりにするだろう。私たちににとっての＜私の島＞を考える格好の機会が、訪れようとしている。

正木 基 (美術評論家、Casa de Cuba主宰)



NELSON DOMÍNGUEZ
ネルソン・ドミンゲス

1947年キューバ、サンティアゴ・デ・クーバに生まれる。キューバを代表する作家の一人であり、わが国で最も親しまれているキューバ作家でもある。膨大な量の学習、実践に裏打ちされた作品の完成度は優れた現代美術作家の多いキューバの中でも群を抜いている。今日世界中から様々な分野で注目を集めている「アフロ・キューバン主義」の世界をモチーフに取り入れた作品群は、キューバという国文化形成の要素をすべて含めた集大成と言える。これまで数多くの重要なグループ展、個展が北・中南米、ヨーロッパ、アジア各国で開催されており、ドミンゲスの描き出す世界がユニバーサルなものであることを証明している。主要な受賞歴には72年国際絵画フェスティバル(カンヌ)ナショナル賞、76年国際木版画ビエンナーレ(チェコスロバキア)大賞、80年リアリスト作品トリエンナーレ(ブルガリア)絵画部門賞、91年ラット・バヴァン国際グラフィック・ビエンナーレ(インド)名誉賞などがある。ミウラートヴィレッジでは99年に個展を開催している。



ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)
愛媛県松山市堀江町1165-1 〒799-2651
Tel:089-978-6838 Fax:089-978-0323
e-mail: fvb2360@mb.infoweb.ne.jp
URL: <http://www.miuraz.co.jp/miurart/>